

ツも見られ、ある場所ではノカラムツとの雑種と思われるものも見られた。今後は九州その他の多くの材料をさらにしらべ、これら 2 系統のノカラムツの分化を明らかにするとともに、これと最も関連深いアキカラムツとの関係を検討しなくてはならない。最後にノカラムツの現在生えている場所をご存知の方は教えて下さい。

○ハイタツナミソウ (山崎 敬) Takasi YAMAZAKI: On *Scutellaria tashiroi* Hayata in Formosa and Ryukyu.

台湾、琉球に分布するルソントツナミソウは、かつてフィリピンの *S. luzonica* Rolf. と同種とされていたが、1929 年工藤祐舜氏は別種であることを知り *S. playfairi* Kudo とした。別に 1934 年、大井次三郎氏は台湾からハイタツナミソウ *S. procumbens* Ohwi を報告し、翌 1935 年タロコ峽から var. *tomentosa* Ohwi を報告している。これより先 1919 年、早田文蔵氏は紅頭嶼から *S. tashiroi* Hayata をかいている。これらはすべて関連のある種類である。密に短い毛が茎に密着してはえていること、花筒が細く長いことなど共通している。すでに初島住彦氏は琉球のものに *S. tashiroi* の名を使っている。*S. tashiroi* は他のものより葉が大形であるが、同一種内の変異とみなされる。台湾本島の *S. playfairi* と *S. procumbens* とは同じものであり、ともに紅頭嶼の *S. tashiroi* の変種とみなすべきものと思う。これらの名を整理すると次のようになる。和名はフィリピンのものと別種であることから、ルソントツナミソウよりハイタツナミソウが適当である。 (東京大学理学部植物学教室)

***Scutellaria tashiroi* Hayata, Icon. Pl. Formos. 8: 85 (1919).**

Hab. Formosa: Isl. Lanyu (Y. Tashiro, 1912).

var. ***playfairi*** (Kudo) Yamazaki comb. nov.—*Scutellaria playfairi* Kudo in Mem. Fac. Sci. Agric. Taihoku Imp. Univ. 2: 254 (1929)—*S. luzonica* Rolfe var. *playfairi* (Kudo) Yamamoto in Journ. Soc. Tropic. Agric. 6: 558 (1934)—*Scutellaria luzonica* (non Rolfe) Hemsley in Journ. Linn. Soc. Bot. 26: 296 (1890)—*Scutellaria procumbens* Ohwi in Fedde Rep. Sp. Nov. 36: 52 (1934).

Hab. Ryukyu: Isl. Okinawa (J. Matsumura, 1894), Katsudake (Y. Kimura et I. Hurusawa, 1940). Formosa: Central mountains (Kawakami et Mori, 1906), Tainan, Taipu 大埔 (S. Sasaki), Takao, Liukuei 六龜 (G. Nakahara, 1905).

var. ***tomentosa*** (Ohwi) Yamazaki comb. nov.—*S. procumbens* Ohwi var. *tomentosa* Ohwi in Act. Phyt. Geobot. 4: 33 (1935).

Hab. Formosa: Taroko (S. Sasaki, 1935), (I. Sasaki, 1965).

- 1) Folia 2-4 cm longa 1.5-3 cm lata. var. *tashioroi*
Folia 0.8-1.8 cm longa et lata. 2
- 2) Folia subtus strigoso-pubescentia var. *playfairi*
Folia subtus pilis longis dense cinero-tomentosa var. *tomentosa*